

# 鎌倉時代の掛川

## ◆ 荘園の広がり<sup>しょうえん</sup>と武士の起こり<sup>ぶしのお</sup>

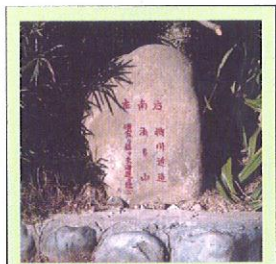
このころの掛川には、<sup>てんのう</sup>天皇家や、<sup>えんりやくじ</sup>延暦寺などの大きな寺院を領主とする荘園、<sup>とどうみ</sup>遠江国の領地である<sup>こくが</sup>国衙領、<sup>いせじんぐう</sup>伊勢神宮の領地である<sup>みくりや</sup>御厨がありました。領主は、荘園に管理する人を派遣し、幕府は、<sup>はけん</sup>地頭を置いて、<sup>ねんぐ</sup>農民から年貢を集めたり、<sup>はんざい</sup>犯罪を取りしまったりしました。

<sup>そが</sup>曾我地区の<sup>りょうけ</sup>領家という地名は、領主から派遣された人が<sup>やしき</sup>屋敷を構えたところ、<sup>ほんじよ</sup>東山口地区の本所という地名は、地頭などが仕事をする建物があったところからきたと考えられます。

## ◆ 市内の荘園・国衙領の分布図



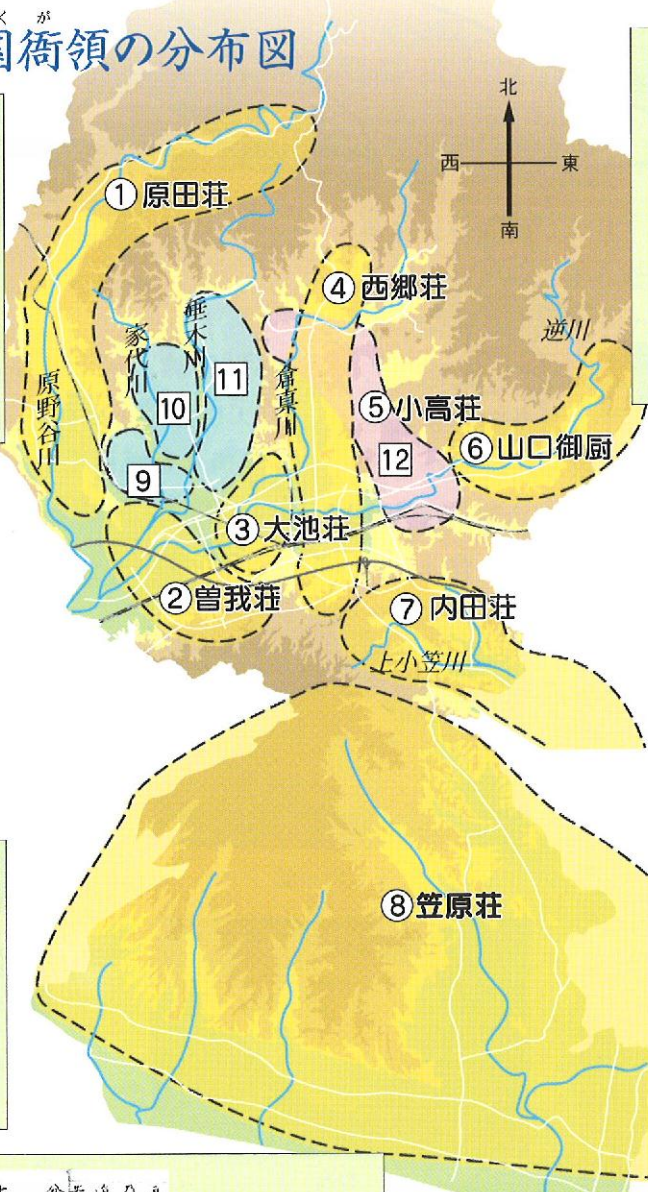
① 原田荘 若一王子神社  
はらのたのしょう わかいちおうじ じんじや  
1263年の記録に出てくる若王子社と考えられます。



② 曾我荘 領家の道しるべ  
そがのしょう  
領家の道しるべ



③ 大池荘 大池  
おおいけのしょう



④ 西郷荘 旧観音寺の石塔  
さいこうのしょう かのんじ せきとう  
1346年の年号があります。

⑧ 笠原荘  
かさはらのしょう  
大東地区・中の八坂神社や中防災センターの辺りが中心といわれています。  
地名に「公文」という役所を表す名前も残されています。

**荘園**

**国衙領**

⑨ 富部郷 ⑩ 家代郷  
とんべごう いえしろごう

⑪ 垂木郷 ⑫ 小高郷  
たるきごう おだかごう

⑦ 内田荘  
うちたのしょう  
内田荘の名が出てくる1410年の経文(龍登院 上内田)

奥願院受領書(正徳元年) 龍登院 上内田  
乃至是元祐元年(正徳元年) 龍登院 上内田  
淨何以故(正徳元年) 龍登院 上内田  
若何以故(正徳元年) 龍登院 上内田  
分元別(正徳元年) 龍登院 上内田



⑤ 小高荘 小高神社  
おたかのしょう



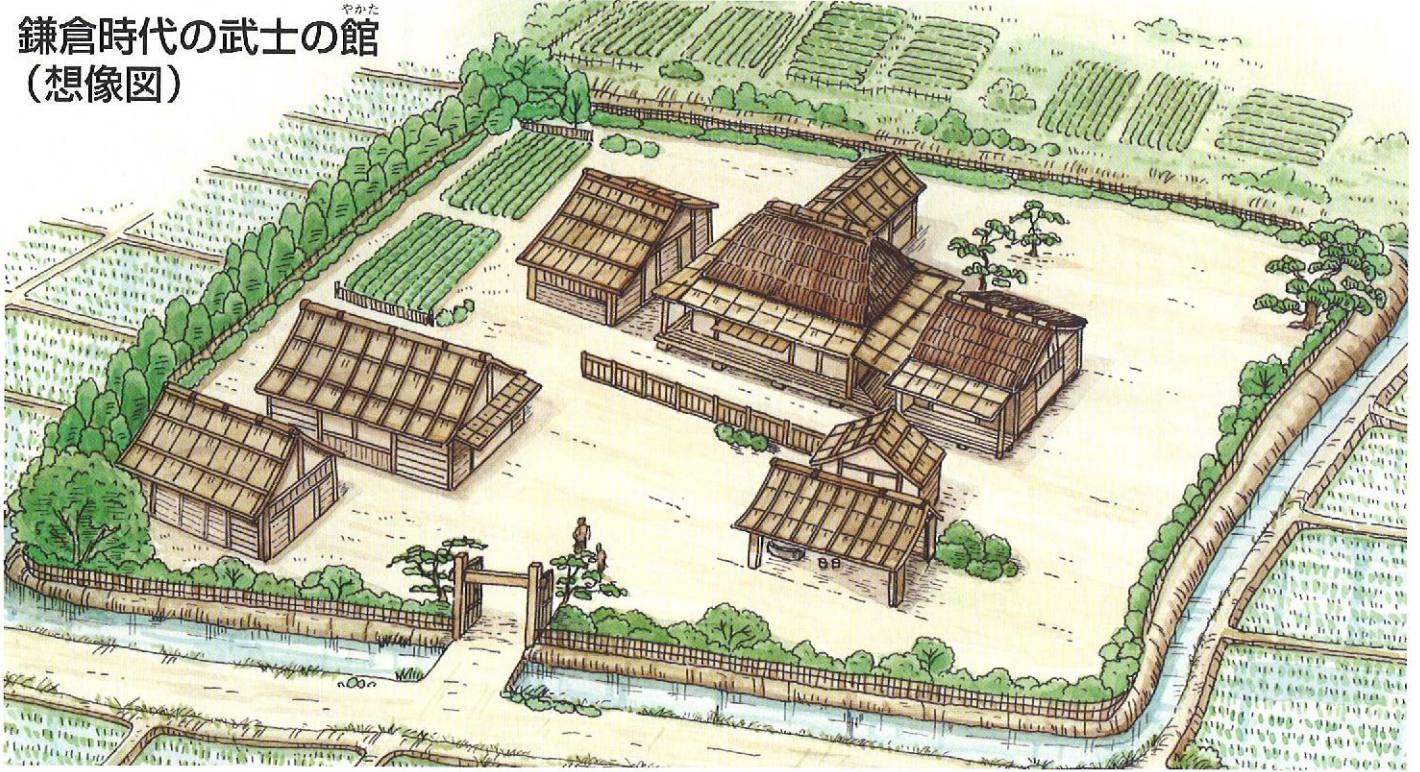
⑥ 山口御厨 本所の地名  
やまぐちのみくりや



## ◆掛川の代表的な二人の武士

平安時代の終わり、源氏の軍勢に、内田家吉と原清益という武士がいました。彼らは、農民を指揮して開墾を行ったり、農民から年貢を集めたりして、荘園の中でしだいに力をつけていきました。

### 鎌倉時代の武士の館 (想像図)



## ◆内田の武士

### 巴御前と戦った内田家吉

1184年、源範頼・義経が率いる頼朝の軍は、近江国（滋賀県）で源（木曾）義仲軍と戦います。家吉は、家来30人余りを引き連れて頼朝軍に加わっていて、敵の義仲に従っていた巴御前と出会います。巴御前は、勇ましく強いと評判の女性です。家吉も、敵の義仲がほめるほど強い武士でした。ふたりは一騎打ちをし、家吉は、巴御前に討たれてしまいます。

家吉の子孫は、1221年の承久の乱の時、幕府の軍に加わって戦いました。内田氏は、その活躍により、石見国（島根県）で地頭を任命され、移り住みます。しかし、一族全員が移り住んだのではなく、内田に残った人もいたようです。

## ◆原田荘の地頭の先祖

### 義経に従い一ノ谷（兵庫県）の戦いで平氏を破った原清益

鎌倉時代、原野谷川流域にあった原田荘の地頭に、原氏という武士がいました。原氏は、荘園の一部を支配する地頭から少しずつ勢力をのぼし、15世紀の後半ごろには、荘園全体を支配する地頭になりました。

1184年、源義仲を討ちほろぼした源義経は、一ノ谷の平氏を攻めました。この時、義経に従った武士の名前の中に、原氏の先祖と考えられる原清益という名前があります。



原氏の墓（照月寺 本郷）